

心に寄り添い、そしてつなぐために



H25.8.31

新潟県立がんセンター新潟病院

地域連携・相談支援センター

臨床心理士 名和淳

ご紹介



○新潟県立がんセンター新潟病院 21科 500床

○地域連携・相談支援センター（2007年4月「相談支援センター」設置, 2012年4月「地域連携・相談支援センター」設置）

○職員： センター長（医師）1

副センター長（看護師長）1

医療相談員1（2）

がん専門看護師1

臨床心理士1

退院調整看護師1（外来より助勤）

事務員2

クラーク2

嘱託事務員1



○業務内容：外来診療予約（外来予約業務・・・診療依頼、検査等依頼、逆紹介、返信業務等の
文書管理、セカンドオピニオンの依頼・実施報告）

医療相談（がん相談、医療福祉相談、心理面でのサポート、退院支援、地域
連携クリティカルパス、院内患者会の支援、ボランティアの受け入れ・アレンジ）

地域医療連携講演会・報告会等

広報活動（「地域医療連携だより」の発行）



心理士の業務

- 地域連携・相談支援センター相談（電話、アポイント、とびこみ）
- 小児科病棟家族サポート、本人サポート、スタッフサポート、スクリーニング、コンサルテーション（本人・家族の見立て、経過観察）＝週一回の病棟カンファレンス、月一回の合同カンファレンス（小児科15床入院患者さん全員へ関わる）
- 小児科病棟告知場面への同席、その後のフォロー
- 小児科心理療法的な関わりの必要なケースへはカウンセリングなどの継続的な関わり（playtherapy、親カウンセリングなど）
- 親のピアサポートグループ運営
- 緩和ケア科 心理検査、心理療法、週一回のカンファレンス
- 心療内科 新患インテーク（入院、外来）、心理検査
- 患者会・自助グループサポート（いやしの会、小児がん体験者の会）
- ボランティア事務局・コーディネート（135名のボランティア登録者あり）
- 講演（患者会ひまわり会「メンタルヘルス」、からだのとしょかんボランティア「聴く」、医療コミュニケーション、全ボランティア対象「がん患者さんの心理と傾聴」・・・）
- 委員会（サポートケア委員会、患者サービス委員会、ボランティア運営部会、教育トレーナー委員会、教育企画委員会）



相談業務で大切にできてきていること



- 患者さんのニーズに沿うことを第一に考え、患者さんの利益になるように全体の方向性を常に意識すること
- 常にアンテナを張り、言葉で表明された相談依頼(患者さん、家族、医師、看護師・・・)と本当の意味での相談の意図が違っていかないか、本当の意味での相談意図は何かをつかむことを心がけること
- 一対一の個別相談にせず、必ず組織・チームの中での位置づけを意識し、関係者と共有していくこと
- 相談業務の中での問題点を常に支援センタースタッフと共有し、どのようにあるのが良いかについて、検討をし続けること
- 支援センターの相談と心理面接を分け、支援センターの相談の場合、継続面接ではなく、適切な部署・機関につなげることを意図すること
- 先に相談支援センターの周知を意識するよりも、出された依頼・今ある仕事をきっちりとやっていきながら、院内スタッフとのコミュニケーションを丁寧に行い、結果的に相談支援センターの役割や存在が知られるように心がけること
- 職員への配慮、ねぎらいを同時に入れ、力づけられるよう考えること

ご清聴ありがとうございました・・・

